

欧州熱波で大規模火災 乾燥で拡大、14万人超避難 スペインは緊急事態宣言

2026/7/25付 | 日本経済新聞 夕刊

【パリ=北松円香、ロンドン=福岡幸太郎】スペインやフランスで高温に伴う森林火災が深刻化している。英BBCによると両国で14万人超が避難した。スペインは緊急事態を宣言した。春以降の高温による乾燥と最近の猛暑で火災が広がりやすくなっている。



スペインのアビラ県で発生した森林火災（24日）=AP

スペインではマドリード州や周辺地域で火災が発生し、政府が24日に緊急事態を宣言した。ロイター通信によると、緊急事態宣言は2025年の大規模停電以来で、火災による宣言は初めてだという。

24日午後にかけて火は燃え広がり、別々の場所で発生した火災がつながる深刻な事態となっている。マドリード州のアユソ首相は同地域では「過去最悪の火事だ」と述べた。

仏南西部ジロンド県でも23日に火災が発生し、観光客が多く集まるキャップフェレ半島全域で避難命令が出た。24日には近隣のランド県でも火事が起きた。

仏メディアのフランスアンフォの集計では、仏国内の年初から22日までに起きた森林火災は4万5000ヘクタールと、25年の面積をすでに上回っている。

フランスとスペインは欧州連合（EU）の災害対応支援措置である「市民保護メカニズム」を要請した。フランスのマクロン大統領によるとクロアチアやポルトガル、チェコやスロバキアから災害対応の航空機が派遣されるという。

山火事が相次ぐ原因は、高温に伴う乾燥だ。欧米の気候学者らによる国際研究チーム「ワールド・ウェザー・アトリビューション」が、欧州の降水量、土壌の水分量、水の蒸発量などを分析した。西ヨーロッパでは昨冬の降雨量が多く、土壌は水分をたくさん含んでいた。しかし、4月以降に晴天や気温が高い状態が続き、水分が急速に奪われたという。

スイスのチューリヒ工科大学のドミニク・シューマッハ氏は「欧州の大部分では冬季の降水量が増えているのに、夏が始まる前に異常な土壌乾燥が起きやすくなる傾向が強まっている」と気候変動の影響を指摘する。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

Nikkei Inc. No reproduction without permission.